

298  
6

110

No 930+

黑澤徹腸著

三大秘法略解 全

翻刻賈買  
賢不許之

大阪 靈峯院藏書

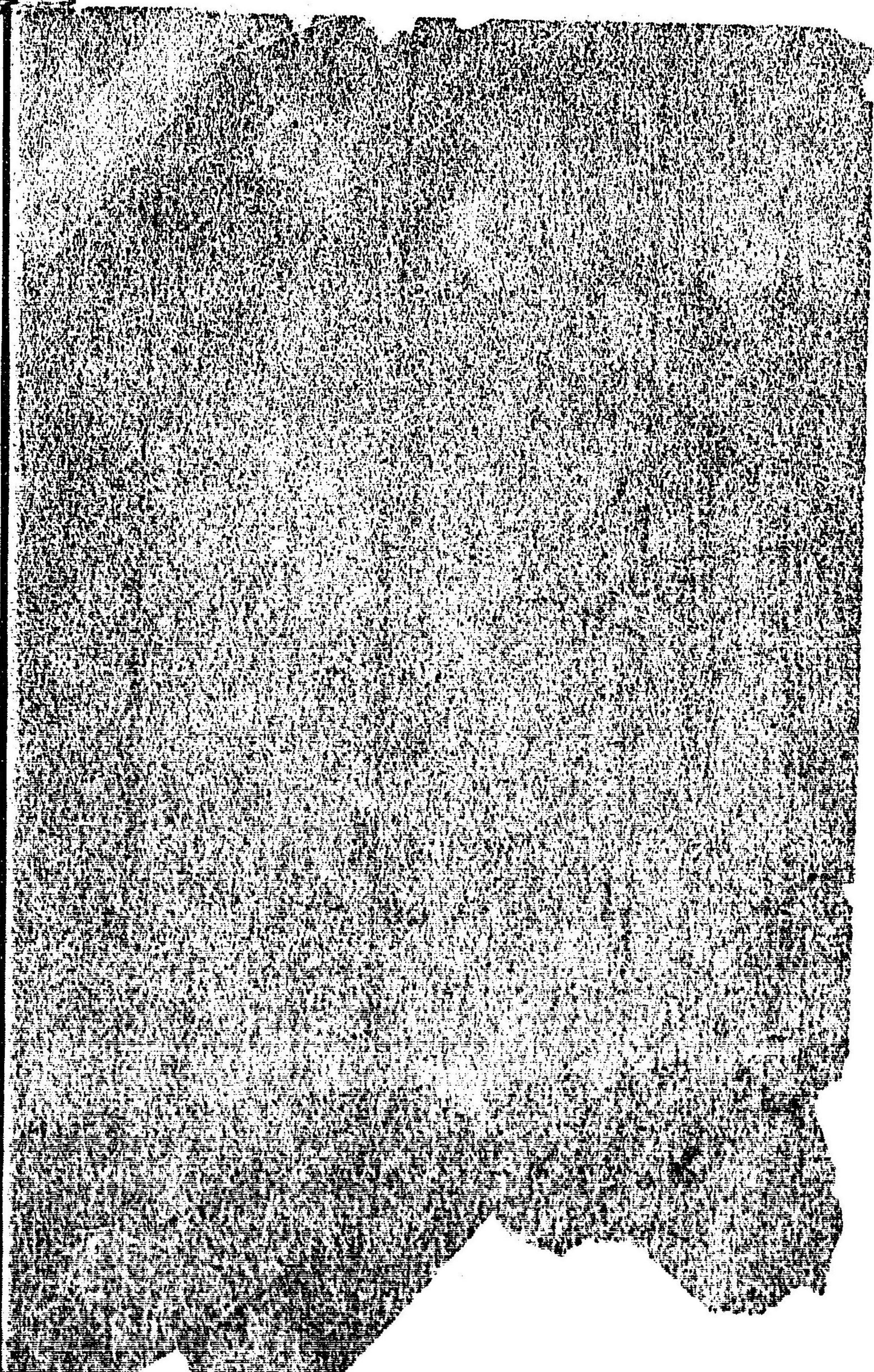




村雲宮御茶筆

福

祿





明治六年

権大僧正村安公日菜



三大秘法畧解

在大阪 黒澤徹胸著

高祖日蓮大菩薩宣龍樹天親天台傳教も未だ弘め玉へざる  
大法を弘通すべし問云龍樹天親天台傳教の残し玉へる大  
法ありや答曰本門の本尊と本門の戒遠と本門の題目と是  
なり云々謹で此御文を奉接に正しく三大秘法にして釋尊  
出世の本懐一代藏經の肝要佛教の骨髄一切衆生成佛の本  
源にして一朝一夕の得て述べ盡すこと能へざる廣大深遠  
の法門無量無邊の御慈悲なり故優陀那大徳之を解し其外  
古來の碩徳の註したるものなきに非ぞと雖ども論義高尙  
にして初心に適せき加之經論に縛とらまされて三寶を敬ふに  
過ぎ遂に衆生をして佛祖宗祖の廣大無邊に灌ぎ玉ひたる  
大慈大悲の妙法水を汲むに難からしめしなり人々が我身



を凡夫なりとして成佛を佛に祚り奴隸心を起して即身是佛の本体を辨知せざるも固に偶然のことに非ざるなり己に佛の奴隸となりて即身是佛の本体を辨知せざる人々に對して即身是佛なりと云へば或は徹脇を指して佛敵法仇ありと罵詈訕歎徹脇果して佛敵法仇なりとせば佛祖の慈悲宗祖の慈愛は何邊に存する乎探究するに苦心なり我等も當體を指して直たがひ佛なりと宣しこそ佛祖宗祖の大慈悲と謂つべし從來人々が我身を凡夫なりとして更に成佛を佛に祚るは佛祖宗祖の已に授け玉ひし御慈悲を自ら非受せざるものと云ふべし徹脇末法濁惡の世に生れ身は未だ塵埃を離れずと雖も心は己に法界に遊ぶことを得たれば謹で佛祖宗祖に代り既に無限に湛ぎ玉ひたる妙法の御

慈悲水を汲で凡夫衆生の穢身に施てし即身是佛の本体を了知せしめんとす然りと雖も前己に云へし如く廣大深遠の法門無量無邊の御慈悲なれば徹脇の如き鈍筆の得て述べ盡すこと能はざるが故に僅に其一小班を著はすのみ  
諸三大秘法とは一には本門の本尊二には本門の題目三には本門の戒壇是なり本尊は意に念じ題目は口に唱ひ戒壇は身に持たもつなり身口意の三業とは是れ之を云ふなり此中一ツを欠でも成佛の道を斷つなり身口意の三業の大事なりとは此故あるを以てなり今經文に照して之を辨せんに法華經に佛三身常住と説き玉ひしは三大法なり如來秘密神通之力と説き玉ひしは秘密の法なり爰を以て之を三大秘法とは云ふなり此三大秘法と離れて別に成佛の法なし



と云ふも敢て不可なきなり最早今日の如き智慧の社會には我等が身を離れて別に佛はあらざるあり苟も色心の二法を具足せしものは皆是佛體なり我身即佛と知るもの之を佛と云ふなり我身即佛と知らざるもの之を凡夫と云ふなり今徹鵬が説く所の三大秘法は本宗と他宗とを問はず深く考ひ厚く味ふべき法門なり不肖の徹鵬不學短才をも顧みず之を辨説するは貴重の佛身を受けながら我身を凡夫なりとして佛祖宗祖の慈悲深々浴せず永く深惡世に迷惑せし人々が速く成佛するの階梯に供んとするの要心禁じ能はざるを以てなり

一に本門の本尊といふ十界勸請の大曼荼羅を云ふなり曼荼羅といふ梵語なり譯して諸佛集と云ふなり蓋し靈山虛空會

に涌出したる大寶塔を寫出せられたるものにて之を意に念するといふ釋迦多寶の二佛を初め奉り地涌千界の佛十方分身の佛六萬恒沙の佛を我等か意の中に宿らしめ玉ふの法なり宗祖大士の我等凡夫の當體を離れて別に寶塔なしと宣ひし是なり是等一切の佛皆な我等か心の中に宿り玉ひば我身即寶塔なりと云ふ義なり又十界と云ふも我等が心を離れて別に十界あるに非ざるなり之を勸請すると云ふは我心の地獄界に佛界を具足し我心の佛界に地獄界を具足するを云ふなり我心の十界とは地獄、餓鬼、畜生、脩羅、人間、天上、聲聞、緣覺、菩薩、佛、是なり看よ眞箇の相面色に現はるゝは心の地獄界なり貪慾の相面色に現はるゝは心の餓鬼界なり愚癡の相面色に現はるゝは心の畜生界なり以上を



三惡道と云ふなり詔曲の相を現はすは心の脩羅界なり平常の面色は心の人間界なり歡喜の相を現はすは心の天上界なり以上を三善道と云ふなり此善惡二道を併せて六道界と云ふなり常に心の此部内を離れざるを六道輪廻とは云ふなり妙法の演説を聞て佛縁結生の相を面色に現はすは心の聲聞緣覺二乘界なり衆生を憐み社會を憂ふるの面相は心の菩薩界なり怨親愛憎の念なく智慧圓滿にして慈悲の相を面色に現はす是れ心の佛界に非すや以上を四聖道と云ふなり人各々皆此十界を心に具足するが故に屢々面体に現へるゝなり疑はしくは自ら心に問ふて知るべし或は曰人を害し世間を損する大惡人も尙ほ心に佛界あり佛祖宗祖の如きも尙ほ心に地獄界ありや答曰九界即佛界

の法門あれば佛祖宗祖の如きは且く述べずと雖もいかなる大惡人も妻子を愛するの心あるは蓋し佛界の一分なりと知るべし以上の唯萬分の一を顯説せしのみなり而して此已心の十界に就て一念三千の珠たまごを顯す法門ありと雖も之を明さば恐らく誹謗正法の罪を犯し阿鼻地獄の縁を結ぶならんと思ふが故に是に畧す蓋し彌陀の四十八願中最も本願の眼目たる第十八願の但書に誹謗正法を救はまとの明文あるを以てなり又中央の妙法蓮華經の我等が身の影なり釋迦多寶の二佛の我等が心の佛界の影なり上行等の菩薩の我等が心の菩薩界の影なり迦葉阿難等の我等が心の聲聞緣覺二乘界の影なり以下之に準じて知るべし我心の地獄界起らば提婆の惡逆を見て之を誡むべし我心の



八  
餓鬼界起らば鬼子母神の殺生を見て之を誠むべし我心の  
畜生界起らば龍女の現身を見て之を誠むべし我心の脩羅  
界起らば阿脩羅王を見て之を誠むべし以上之に準じて知  
るべし然るを若し心常に三惡道に墜し六道に輪廻するが  
如きことあらば諸佛は宿り玉のす妙法五字の禪の脱壳の  
如くなりと知るべし實に諸佛の宿り玉のす妙法五字の禪  
の脱壳の如くなるのみならず佛の當體を三惡道に墜し六  
道に輪廻せしむると同一般なり己に佛の當體を三惡道に  
墜しながら成佛を祚りて効能あると思ふ歟己に佛の當體  
を六道に輪廻せしめながら此御本尊を我身の影なり我心  
の寫眞なりと思ふ歟我等が身も心常に佛界に持てば妙法  
五字の佛なり祚らせとも即佛身あり十界勸請の大曼荼羅

なり宗祖大士の無量珍寶不求自得と宣ひし是なり心常に  
三惡道を離れずんば佛身も即地獄餓鬼畜生なり宗祖大士  
の善無畏の墜獄を責め玉ふ是なり要するに此御本尊を意  
に念ぞるとは我心の常に佛界を離れず我心に一切の諸佛  
宿り玉ひし大事の身なりと心得て日夜に謹戒を加ふべき  
行と知るべきなり  
二に本門の題目とは妙法蓮華經是なり是に歸依するが故  
に南無の二字を冠す南無とは梵語なり譯して歸依と云ふ  
なり題目とは法華經の題名なるを以てなりと雖も而も實  
に久遠の本佛の寶號なり法華經に我實成佛已來無量無  
邊百千萬億那由他劫云々と説き玉ひし是なり之を解釋と  
るときは無始の大昔より佛となりて此娑婆世界に在と云



ふことなり凡そ無始の大昔より此娑婆世界を離れず所謂  
生せず滅せざるものは何かある久遠の本佛の外なきなり  
久遠の本佛とは無作三身の佛なり三身とは法身報身應身  
是なり法身とは十方法界の五大(地水火風空)の体是なり報  
身とは十方法界の五蘊(色受想行識)の性是なり應身とは十  
方法界の六根(眼耳鼻舌身意)の相是なり此三身は三體ある  
に非す即一身なり宗祖大士の一身即三身なるを名けて秘  
と爲し三身即一身なるを名けて密と爲す云々と宣ひし是  
なり此中五大を以て本源とす即天地四維森羅萬像の親な  
り五蘊を以て信仰の目的とす即我等衆生の身を脩むる智  
慧なり六根を以て利益の本体とす即一切世間の妙用なり  
我等が此久遠の本佛と恭敬禮拜するは全く能詮の親なる

を以てあり左れば我等は久遠の本佛の分子なり妙法五字  
に外ならざるなり我等が身も法界の五大の和合せしもの  
なり我等が智慧も法界の五蘊の和合せしものなり我等が  
妙用も法界の六根の和合せしものなり故に我身も亦無作  
の三身なり即一身なり法華經に今此三界皆是我有と説き  
玉ひしは久遠の本佛は十方法界の一切の五大と一切の五  
蘊と一切の六根とを以て本體と爲し玉ふを以てなり此中  
衆生悉是我子と説き玉ひしは我等も亦た法界の五大と五  
蘊と六根との和合せたるものにて久遠の本佛の分子なる  
を以てなり宗祖大士の所化以て同体なりと宣ひしは此義  
あるが故なり我等は他宗なりとて久遠の本佛を佛と思は  
ざるものは我等が親は猿猴なり猿猴が我等を生めりと云



へしに異ならざるなり我等は凡夫なり佛の子と異なりな  
 んと思ふものは我身即五大にして妙法五字是なりと云ふ  
 ことを知らざるものなり苟も身体あるものへ皆久遠の本  
 佛の分子にして妙法五字の佛なりと心得べきなり宗祖大  
 士は當體蓮花佛と宣ひし是なり我等は久遠の本佛の分身  
 なり眞の佛子なるが故に日夜に佛の加護し玉ふこと猶我  
 等が幼兒を愛するが如し故に此本佛を恭敬禮拜せざるも  
 のへ恰も幼兒の成長して親を親と敬はず孝養を盡さざる  
 が如し豈に不孝の罪を免がるべけんや久遠の本佛を恭敬  
 禮拜するは我身の位を現はし我身の佛子を表するなり口  
 に題目を唱ふると云ふは我身即佛なり佛の子なるが故に  
 我身は大事の身なりと心得て日夜に謹戒を加ふべき行と

知るべきなり

三に本門の戒壇とは妙法の本圓戒を受持する場所即道場  
 を云ふなり宗祖大士の靈山にも似たらん最勝の地を撰で  
 戒壇を建立すべき歟時を俟つべきのみと宣ひしは日本國  
 一所の大戒壇なりと知るべし此大戒壇は叡山の戒壇も同  
 様の順序を経て建立すべきが故に本宗未だ此大戒壇なし  
 と雖も受職灌頂のことを執行するは即是道場とて何れの  
 場所にてても便宜に隨て可なり所謂若於林中若於樹下等是  
 なり之を解釋するときは大戒壇建立までは若は林の中に  
 ても若は樹の下にてても受職灌頂の儀相を執行して可なり  
 と云ふことなり宗祖大士も卯月八日夜半寅の時を以て最  
 速房の爲に之を執行せられたることあり蓋し灌洗佛形像



經に起因せられたるもの歟然るに本宗に此儀相戒法のこ  
 となく僅かに勤經説教の場所を以て理の戒壇なりとせし  
 は即是道場の文を曲解せしもの歟此義も就ては大に意見  
 あり他日更に論することあるべし固に杞憂すべきことな  
 り眞言宗に秘密灌頂あり中古天台宗之を用ひ禪宗に受戒  
 作法あり淨土宗に五重相傳圓頓戒あり是等は一時の氣休  
 めに過ぎすと雖も而も戒法なり本宗の戒法は受持の時直  
 に妙覺の位に入るべきの大法なり一たび之を受持して己  
 に妙覺果滿を得ば再三再四に及ぶことあるを要す可から  
 ざるなり此戒法を正當に受持せすれば仮令妙法を口に唱  
 ふるも恐らく法華經の行者と云ふ能はざるべし宗祖大士  
 も今南無妙法蓮華經あれども今身より佛身に至るまでの

受持を受けずんば成佛不可有之と宣ひしなむ今身より佛  
 身に至るまでの受持を受るといふ今日より佛の位に入りし  
 なり即ち成佛せりと心に決定して疑はず以て我身を大切  
 にし信心を強盛にするると云ふことを佛の教に隨て約束す  
 るを云ふなり之を名けて戒法と云ふ此場所を名けて戒壇  
 と云ふなり要するに戒壇とは我身を凡夫なりとして身の  
 貴重なるを知らざるものに我身即佛なり眞の佛子なりと  
 云ふことを忘れず信心して萬善萬行を脩すべしと云ふこ  
 とを知らしむる場所を云ふなり之を身に持つとは我身即  
 佛なり佛の分子にして大事の身なりと心得て日夜に謹戒  
 を加ふべき行と知るべきなり  
 三大秘法の大畧此の如くにて佛教の骨髄なりと雖も我等



が身を離れて別に三大秘法あることなし諸宗の學者共に爾前經に均泥して我身を離れて別に佛を立て之に成佛を祚らしむるは佛教を知らざるものと云ふへし無量義經に曰種々說法以方便力四十餘年未顯眞實云々法華經に曰正直捨方便但說無上道云々涅槃經に曰依了義經不依不了義經云々宗祖大士曰法華經の大事なりとは此三大秘法を念みたる經文なるが故なり云々我等は凡夫なりとて決して三惡道に墜し六道に輪廻すべからず此三大秘法を受持すれば即佛身あるが故なり我等は濁惡世の衆生なればとて決して成佛せずと思ふべからず此三大秘法を受持すれば直に妙覺の位に入るが故なり然れども我身即佛なりとて決して佛を輕んすべからず佛あればこそ我身あるを以て

なり我身即妙覺の位に入りたればとて決して佛に供養禮拜するを懈るべからず佛に供養禮拜するは我身の慈悲を表し恩を報ゆるの法なるを以てなり蓋し三惡道に墜し六道に輪廻し佛を輕んじ佛に供養禮拜せずんば我身即佛にあらざるあり佛とは智慧圓滿にして怨親愛憎の念なく慈悲を以て無限に施濟し玉ふ大慈大悲の御心なり我身即佛なりとは常に此事を忘れざるを云ふなり南無妙法蓮華經

明治二十一年三月十日印刷落成

全 年 今 月 十七 日 出版 御 届

全 年 四 月 八 日 發行



大阪府北區此花町二丁目二百三十番地平民  
著述人兼發行人 黑澤 一期

全 府東區京橋三丁目五十番屋敷  
印刷人 村上 彌助

此法門は誰人も知らざるべからざる大事の法門なるか故  
に普く之を知らしめんため施本せんと念を發し僧俗諸  
賢の贊助を得て漸次に全ふせしも僅かの部數に過ぎざれ  
は普く之を興へること能はされども尙有志の人々は一椀  
の飯を徹腸に與へんどの思召を以幾千も限らず淨財を徹  
腸に給らば徹腸之を集めて漸次に數萬部も施本すべし尙  
次より傍訓を加へて婦女子にも讀み易くするの意なり  
但寄附金の有無に限らず御入用の御方は遠慮なく申越  
ありたし遠隔の地は郵税二錢添らるべし

月 日

黑澤徹腸敬白

村雲宮權大僧正御題字  
西京本國寺岩村權僧正題字  
堺妙國寺河田僧正序文  
徹腸居士黑澤一期著

法界 奇話 本化之魁 全五冊 近刻

正價金三十錢郵税金二十錢

右の一人の大聖人が千辛萬苦して全國を漫遊し妙法を弘通せらるゝことを寫したるものにて卷中殆んど宗祖の再來かど疑わゆるの現象を見せ暗然妙法の眞味を悟らしめ御利益を被らしむるの小説なり記す所の人々善惡に依て果報を得ると女色の爲めに將に一身を誤らんとするか如きは自然戯本又似たれども正法に第六天の魔土か障碍するの妙味を現はしたるものにて他の小説と異なることは勿論なり此回此原稿を讀て妙法の眞理を悟り宗祖の御影を被りたりとて著者に金百圓を送りて之を出版して世の迷衆を救ふへしと勸められしより愈々公にせんとす尤も周旋等の費用は此金員にて餘りあれば前記の正價即製本實費にて之を發賣す  
黑澤徹腸著

十二 因緣註釋 全壹册近刻

正價郵税共金十五錢也

法花經化城喻品にある所にて三世因果の道理之を明さは一目瞭然たるへり法門なる



2E-81

を以て今回之を昨年と今年と來年との三年に譬へて佛學を知らずとも一讀して佛敎の大体を知るに易からしむるの註なり参考書に俱合類を用ひたり右二書近々出版可仕候御入用之方々の前以て往復はかきにて御照會被下度落成の上は御回答仕候間其節御送金相成候へ直に送本可仕候也

大阿北區此花町二丁目二百三十番地

明治二十年十二月 日

著 作 人 黒 澤 徹 腸

全 東區心齋橋安土町北入

日蓮宗御用書肆 吉 田 善 藏

徹腸宗敎學に志し内外敎を學ぶこと十數年何れも野蠻の敎にして開明國人に適するものなきを憂ひしか妙法花經を既味するに至て大に感起し續て蓮師の遺錄を拜して倍々感佩せり愈々蓮宗の開明人に施すに足るを認めたるを以て以後同宗の學問を擴充せんことに心を決し己又二三の學士と謀りたれば來年八月を期し私立學校を起し宗敎學は勿論哲學物理學心理學倫理學等の宗敎上必要の學問を教授し傍ら之か講義録を發行して遠隔の人に便す祖錄妙經は勿論之に載して通信講義に充つるあり有志者の豫め御照會置き被下度八月迄は徹腸關西地方を漫遊せんとすれば阪地に居ざるを以て爰に延すもの也

明治二十年十二月 日

黒 澤 徹 腸







019946-000-7

特16-118

三大秘法略解

黒沢 鉄腸 / 著

M21.4

ABH-0087

